

## 科学者委員会男女共同参画分科会（第24期・第1回）議事要旨

1 日 時 平成30年2月9日（金）13時00分～15時00分

2 場 所 日本学術会議 5-A(1)会議室（5階）

3 出席者

伊藤公雄委員、久留島典子委員、三成美保委員、大杉立委員、熊谷日登美委員、加藤昌子委員、野尻美保子委員、藤井良一委員、渡辺美代子委員、井野瀬久美恵委員、高橋裕子委員、新福洋子委員

4 配布資料

- 資料1 男女共同参画分科会委員名簿
- 資料2 科学者委員会運営要綱
- 資料3 男女共同参画分科会 設置提案書
- 資料4 第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）
- 資料5 提言「科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」（平成27年8月6日）
- 資料6 若手アカデミー・アンケート結果

5 議題

（1）役員を選出について

委員長に三成委員、副委員長に藤井委員、幹事に伊藤委員、名越委員がそれぞれ選任された。

（2）24期の課題について

本分科会の審議事項について、概要の説明及び意見交換が行われた。

### 1. 第5次男女共同参画基本計画の策定に向けた課題の検討

井野瀬委員（23期男女共同参画分科会委員長）より、23期の男女共同参画分科会の活動内容について説明があった。

三成委員長より、今期も前期同様、第5次男女共同参画基本計画の策定を見越して、分科会として提言やシンポジウムなどの活動を行っていきたい旨、発言があった。各委員から出された意見は以下の通り。

- ・23期と同様、提言の発出、関連するシンポジウムの開催等を目指す。
- ・提言については、基本計画の「第5分野 科学技術・学術における男女共同参画の推進」は当然射程にいれつつ、「第10分野 教育・メディア等を通じた意識改革、理解の促進」なども重要な課題になると考えられる。その他についても、この分科会から発信できることは数多くあると考えら

れるので、多様な形で発信していきたい。

- ・24期の2年目に提言を出すのでは時期的に遅いと考えられる（今年中には策定委員会が開始されると思われるため）。学術会議の関係者が策定委員になる可能性はあると思われるので、その人を通して意見をつなげていく（発言する材料を提供していく）活動を行う方が重要であると思う。この活動を中心に行った方が基本計画に入り込めると考えられる。

分科会の活動については、①基本計画策定委員と連携する②分科会の議論をまとめた提言等を発出する、という2本立てで進めていくこととなった。また、23期の提言をベースに、足りない部分や補強する部分を追加し、次の計画に向けた交渉を始めることとした。交渉中に出てきた課題等については、24期の最後に提言としてまとめ、25期につなげることとした。

## 2. 大学・研究機関・学協会における女性活躍推進のための方策についての検討

23期のGender Summit10分科会を引き継ぐ形の組織を、本分科会の小分科会として設置することが提案され、承認された。関連で、6月にシンポジウム（できれば学術フォーラムとして開催）についても概要の説明があった。（6月14日（木）13時～17時、於：日本学術会議講堂（予定））

その他に各委員から出された意見は、以下の通り。

- ・教育分野について、大学に入るまでに男女の差ができてしまっていることもあるため、教育分野をもう少し真剣に考えた方が良い。本分科会が課題の1つとして、議論・発信することも必要である。
- ・様々な取り組みの情報やデータを、本分科会に持ち寄ってもらい、さらに議論を積み上げていきたい。

## 3. ジェンダー関連分科会の活動の総括と課題の整理

各委員から出された意見は、以下の通り。

- ・ジェンダー関連分科会は現在第一部に多く、第二部・第三部はあまり活発ではないように見受けられる。第二部・第三部にそれぞれの分科会（部附置等）を作ってもらい、学協会連合等とも協力してもらいたい、という点を委員長から部長にお願いすることとする。各部では4月総会時に部会が予定されているので、そこで検討してもらえたらと思う。
- ・本分科会の委員が各部を総括するジェンダー関連分科会の中枢に入ること、本分科会と連携をはかることができる。
- ・分科会でアイデアや取組など活発に活動していても、大学や学協会には浸透していないこともあり、その点は非常に問題だと考えている。
- ・学協会連絡会に入っていない学会等の中には意識が低い学会もあり、そのような学会にも協力してもらえるような仕組みがあった方が良い。

#### 4. 学術におけるダイバーシティ推進に向けた方策の検討

三成委員長の説明概要は、以下の通り。

- ・本分科会は男女共同参画を基本に掲げているが、様々な面でダイバーシティという面が要請されているので、男女共同参画という軸を外すことなく、ダイバーシティの問題にも取り組んでいきたい。
- ・この点は24期から新しく取組として入れた点である。

#### (3) 若手アカデミー・アンケートの報告について

新福委員より、若手アカデミーで行った男女共同参画に関するアンケートの報告があった。

- ・若手研究者の意見として、出産、育児中の研究者への配慮として、若手研究者の待遇の向上と期限付きポストの見直し、ICTを活用した在宅勤務の認定の拡大、研究者のニーズに合わせた託児システムの必要性などが示された。

#### (4) その他

23期の提言をたたき台として、バージョンアップを行い、シンポジウムを含めた、様々な発信活動をしていくことが重要である。

次回日程は未定だが、2～3か月に1回の頻度で開催を予定している。

開催前に読むことが必要なものについては、開催前に事前送付等を行う。また、メール審議等を活用して効率的に審議を行うこととなった。

以上